

MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(https://www.ms-ins.com/marine_navi/)

居眠りによる船舶乗揚げ事故について

元号が令和となりましたが、平成の30年間を振り返ると交通安全施設の拡充、航海主要輻輳海域における海上交通センターの効果的な航海サポート、各種航海機器の発達、その他さまざまな安全取組により、船舶の乗揚げ事故は減少傾向にあるといえます。

一方で、居眠りによる船舶の乗揚げ事故は引き続き多発しており、例えば運輸安全委員会事務局広島事務所 平成30年12月21日付の報告によると内航船では備讃瀬戸、松山沖、祝島周辺海域において平成24年～29年の間で31件発生しております。本号では、これらの事故に関して、その背景と防止策について下記の通りとりまとめましたのでご案内します。

1. 居眠りによる乗揚げの現状

(1) 発生場所

特に瀬戸内海は島々が点在していて、他海域と比較すると変針場所（船舶の航行向きを変える地点）が多いため 短時間の居眠りでも変針場所をそのまま直進してしまい島の浅瀬に乗揚げてしまうリスクが高いエリアといえます。

(2) 発生時間帯

夕方から夜明けまでの周囲が暗くなる状態（夕方18時から朝方6時までの時間帯）で居眠りに陥りやすく、事故のほとんどがこの時間帯に集中しております。

2. 居眠りの原因

居眠りの主な原因として疲れや睡眠不足が指摘されています。

特に、乗組員の乗り替わりなどで環境に不慣れな状況で、十分な休息なく連続した業務に携わっていると疲労が蓄積し、当直時に無意識に眠りに落ちてしまう恐れがあります。

それでも周囲に航行船が多いときは緊張感から居眠りのリスクは比較的低いのですが、周囲の船舶が少なくなり、変針点まで距離もあることで自動操舵に切り替えたりすると緊張が解け、上記疲れ等により急激に眠気に襲われたりすることがあります。

3. 居眠り防止のために

当直者は眠気に襲われたときに「自分は大丈夫」と決めつけて何もしないのではなく、次のことを試してみることが効果的と言われています。

- ・ 操舵室の椅子に座らない。
- ・ 船内の温度を下げる、または外の新鮮な空気を吸う。
- ・ 顔を洗う、体操をする。
- ・ コーヒーを飲む、ガムを噛む。
- ・ 他の乗組員と会話する。

静かで温かい場所にじっとしていると眠気に繋がりがやすくなりますが、当直警報装置の作動状況（センサーの感知範囲、警報が鳴る設定時間など）を日ごろから実際に確認しておき、同装置の適切な設定・運用と上記の対策を組み合わせることが居眠り防止に効果的と考えられます。

それでも、どうしても眠気が回復しないときは、無理をせず、他の乗組員の方の援助を得ることが大切であり、乗組員の中で相談できる雰囲気作りも船舶の安全運航には欠かせません。

そのためにも、陸側のサポートを得ながら、事故を防止するためにはどうしたらよいか乗組員の間で定期的に話し合い、事故防止のための協力体制を築いておくことが重要です。

以上